

新生匠瑳戦略会議（第1回商店街復権部会） 会議録

開催日時：平成24年8月27日（月）

午後7時00分～9時20分

開催場所：匠瑳市役所議会棟第3委員会室

出席委員：（学識経験者）渡辺新

（団体推薦者）越川八代枝、鈴木和彦

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子

（5人／名簿順）

欠席委員：なし

市出席者：（事務局/企画課）小川課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

1 開 会

[事務局]

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日は、新生匠瑳戦略会議の商店街復権部会の第1回目ということでよろしくお願ひします。初めに、部会長でありますA委員からごあいさつをお願いします。

2 あいさつ

[部会長]

連日の猛暑の中、お集まりいただきありがとうございます。戦略会議も中間報告が最終段階にきている中で、商店街、特にJT跡地の問題があるわけですが、どうも奥まで踏み込めないでいる状態だと感じています。そんな中、前回の会議で委員長から部会設置の提案があり、本日お集まりいただく運びとなりました。お手元に資料が配付されていますが、本部会は商店街復権部会ということで、このメンバーで8月～10月にかけて検討していく予定です。私なりに本日のレジュメを作成し、これに沿って検討しながら、次回の部会につなげていきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

[事務局]

ありがとうございました。先ほど部会長からもお話がありましたが、本日の商店街

復権部会の構成については、配付資料の2枚目にお示ししております。3枚目の資料は、レジュメとして部会長に作成していただいたものです。それでは、部会長に議長をお願いし、議事を進めていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

3 議 事

(1) 「まち（中央商店街）の香りは地域のちから!!」について

[議長]

それでは、委員長からも一言頂きたいと思います。

[委員長]

先日、多田屋のBさん、林業組合のC組合長、野栄地区で無農薬栽培をしているDさん、植木でバイオマスをやっているFさんの4人に会って、話を聞いてきました。以前、「里山・檀林ふおーらむ」や「商店街復権会議」に参加していただいたNPOのFさんは、実はDさんのところで農業の研修を受けていたということで、NPOと農業がここにつながってきました。また、植木のバイオマスは、途中で頓挫したようですが、それでもまだ細々と続けているそうです。商店街でも一点逸品運動という活動をしているようですが、これも途中で頓挫したようですので、商店街の活性化につなげるのは難しいという感じがします。普段から自分の研究で調査をすることは慣れているので、この間調査を行ってきました。

それと一言申し上げますと、実は戦略会議に危機意識を持っています。中間報告はあくまで地域づくりの道具で、市民協働などは匝瑳市ではあまり慣れていないものなので、大変意味のあることではありますが、それだけで地域づくりを行うことは難しいと思います。それで、この間聞き取り調査を行ったわけですが、かなり大きな見取り図ができてきました。NPOのFさんは典型的な例で、外から入ってきた人が市内で農業研修を受けていたり、野栄地区では海岸だけでなく農産加工などをやっている人がけっこういます。そういう人たちと里山が結びついてくるのではないかと思います。残りわずかな任期ですが、この部会では自分を出させてもらいますので、よろしくお願いします。

[議長]

実は8月1日に、市の執行部と商工会で東京へ視察に行きました。神田のアンテナショップに1ヶ月間スペースを借りているそうですが、そこで栢田で農業をやっている女性の方にお会いしまして、市外でもいろいろ活動されている方がいるのだと思い

ました。地元での接点がありませんので驚いてしまいました。

[委員長]

無農薬栽培や養鶏場を大きくやっている方もいますが、地元では行政や住民からある意味遮断させられています。本人たちも、いろいろ新しいことをやっていますが、行政には近づこうとしていません。そういうところを提携させることができればと思います。かつて旧野栄町では「野栄いきいき農業塾」というものを作りました。その成果の一つがチューリップ祭りで、その他にも当時の生産農家が集まって地ビールの工場をつくろうとしたなど、いろいろ動きがありました。組織化は難しいと思いますが、それらの活動を今一度掘り起こして、緩やかに提携することでまちづくりに活かさないかと思っています。旧光町では房総食糧センターの存在が大きいですね。当時の町長がトップダウンで行いましたが、それがうまくかみ合った例です。ただ、市町村合併を機に破綻してしまっただけです。長くなってしまいましたが、以上、よろしくをお願いします。

[議長]

では、レジュメに沿って進めていきます。昨年11月に商店街復権会議を行いました。そこで皆さんから出た意見をいろいろ考えてみました。商店街の活気を取り戻すためには個店の経営や街並みの大切さを提起し、「商店街がなくなってもいいのか」という投げかけからスタートしたわけです。いろいろな人の話を伺う中で、委員長が最終的に提案したのは、商店街のマスタープランを作ったらどうかということでした。商店街の活性化というと、差別化や便利さといったところまでは行き着くのですが、過去に大型店などが進出したとき、商工会で調査や新しい取り組みを行っているかという問いに、商工会では「ない」と回答されていました。私も今年の4月から商工会の副会長という立場を仰せつかったわけですが、年間事業計画を見てみますと、毎年決まった行事を淡々と消化することが商工会の活動のように感じました。これだけ世の中が変化しているわけですから、商工会の活動も変化すべきではないかと思いました。後は、伝統的な商店街の街並み保存という観点から、空き店舗の活用についても話題が出ました。街並みという観点では、佐原、川越、栃木、飛騨高山などが有名で、神社や寺を中心にお店が広がっています。匝瑳市でも八重垣神社や見徳寺がありますので、商店街も伝統的な場所に位置づけられていると思います。時代は新しくなっていますが、古い文化や伝統を絡ませたまちづくりもあるのではないかと思います。商店街復権会議を振り返って、G委員いかがですか。

[G委員]

新生匝瑳戦略会議というものがあまり市民に浸透していない段階でこういう復権会

議のような場を設けたとき、自分から積極的に参加して商店街を盛り上げようという雰囲気よりも、「行政側が何かしてくれるのか」という参加者の受身のオーラを強く感じてしまいました。大型店が進出してくる中で、何も対策をせずにお客をとられていくのをただ待っているような雰囲気になってしまっています。そのまま閉店に追い込まれるのか、それとも、みんなで知恵を出して頑張ろうという雰囲気にするのか、本当に瀬戸際だと思います。

[議長]

本来なら大型店が進出する際に、何らかの対策を立てるべきだったと思います。以前、委員長からも話がありましたが、大型店が進出しているところでも、活性化している商店街はあります。スーパーで買うものは大体決まっていますから、スーパーにないもの、あるいは手作りでそこにしかないもの、対面販売の魅力など、アピールの方法はいろいろあると思います。値段や品ぞろえでは大型店と勝負になりませんから、そういう意識を皆さんでまず共有することが大事だと思います。H委員いかがですか。

[H委員]

私はよく商店街で買物をしますが、店主に売る気があるようには感じられません。最近、アイスを買おうと商店街のお店に行ったら、何十年も前のアイスが3～4個しか置いてなく、まとめてアイスを買うことができませんでした。昔は店主も元気が良く、私も商店街での買物を楽しみに通っていたのですが、現在はその面影もありませんでした。以前、洋服屋さんの話をしましたが、大型店にはおばさんやおばあさんが着るような服はあまり置いていませんので、そういうところを狙って商売すればいいと思います。地方は車社会ですから、ちょっと離れた銚子や成田の大型店に買物に行ってしまうよね。これからの高齢化社会を考えると、まさに高齢者をターゲットにしたお店が商店街にあって、そこに欲しいものがあれば、わざわざ市外へは行かずにお客は来ると思います。大型店が来たから売れなくなったというのは逃げ道で、大型店にないものは必ずあります。私が商店街に魅力を感じる場所は、街中を歩いていると、わざわざ声をかけてくれるお店があるところです。それが対面販売の魅力だと思いますし、用はなかったけどお店に入るきっかけにはなりますよね。最近では会話のないお店もありますから、そういうところは正直入りづらいです。

[議長]

接客や電話対応の仕方など、旭市の商工会では積極的に取り組みを行っています。先ほどのH委員の発言にもあるとおり、消費者の立場から商店街を見てみると、意外と基本的な部分が欠けているのかもしれない。

[H委員]

もちろん、素晴らしいお店も多いですが、やはり商売ですから愛想は良くしないと
いけないと思います。一方、大型店の店員さんは非常に丁寧で、見つからない商品を
一生懸命探してくれます。

[委員長]

大型店やチェーン店は全てマニュアル化されていて、愛想はないかもしれませんが
接客はきちんとできています。

[H委員]

私も知りませんでした。家の近所のおじさんが大型店にトウモロコシを卸してい
て、生産者であるそのおじさんが、お店で直接お客に売っていたのです。愛想のいい
おじさんなので、そのトウモロコシが飛ぶように売れていました。

[委員長]

それをまさに商店街でできれば、八日市場の復権になると思います。私の勤務先の
近くに砂町銀座という東京でも3本の指に入る商店街があります。商店街という
と、例えば、門前町ならその先にお寺があると思いますが、そこには何もありません。し
かし、近くに大型店が進出してきて、もちろん対策を立てていたと思いますが、それ
以前に商店街の中にコンビニや100円ショップが入り始めていました。私も惣菜を
買いに行ったりしますが、もちろん大型店の中にも専門店が入っていておいしい惣菜屋
さんがいます。ただ、商店街での買物は、先ほど言っていた対面販売ですから、少
しおまけをしていつもより多めにくれたりするので、またそのお店に買いに行きた
くなくなってしまいますよね。

[H委員]

匝瑳市の商店街にはまだ100円ショップとコンビニは入っていません。夜は、一部
で少し遅くまでお店を開いていますが、19時を過ぎたらほとんど真っ暗です。

[委員長]

多田屋の能勢さんに話を伺ったときに、朝はゴミを拾いながら歩いて通勤するとい
う話になり、その際に、以前お店があったところが閉店して建物がなくなってしまい、
現在は駐車場になっているという話をしました。いわゆる歯抜け状態になってしまっ
ていて、まちの景観として良くありません。また、今まで気がつきませんでした。が、
市役所へ向かう旧道沿いに加瀬金物店というお店がありますよね。無農薬栽培をして
いるDさんは、物がいいので必ずそのお店を利用するそうです。こういうお店は残し
たいと思いますよね。

[議長]

先日テレビでやっていたのは、東京で商売をしている60歳の方が地域で支持されて

いて、一族ではないですが後継者に店を譲るという話でした。支援組織やサポート体制がしっかりできていたおかげか、公募をしたら十数人の応募がありました。結局、その方がまだ現役でやれているということもあって、5年後に店を譲るということになりました。その間に、後継者が新しい取り組みなどを考えておき、5年後にお店を引き継ぐという、そういう取り組みまで行っているところがあります。これは空き店舗の進化ともとれます。先ほどの加瀬金物店も残してほしいお店ですが、もう一つ「うれしの」というお店も同様に思います。個店の最大の問題点は、後継者問題です。後継者は通常一族の人が引き継ぐと思いますが、それだけでは課題を解決することは難しいので、後継者問題の新しいあり方や取り組みも考えていくべきだと思います。ただ、後継者のやる気やお店との利害関係も絡んできますので、そのへんの調整が必要になってくると思います。I 委員いかがですか。

[I 委員]

良いお店を残したいという気持ちはあると思いますが、後継者問題は非常に難しい問題だと思います。商店街も、後継者がいるお店はあまりないというのが現状です。先ほど部会長からもお話がありましたが、商工会も行事をこなすことが精一杯で、このまちをどうしようかというところまでは、私たちに伝わってきません。部会がいくつかあって、それぞれに活動を行ってはいますが、一体的な取り組みにはなっていません。店主たちがこのまちをどのように考えているのかが伝わってくれば、戦略会議でも議論がしやすいのですが。

[議長]

商工会では年間1億円ぐらいの予算があって、市からは2,000万円ぐらいの補助金が出ています。

[I 委員]

年末ジャンボ宝くじ、八重垣神社祇園祭、よかっぺ祭り、市場まつりなどいろいろやってはいます。ターゲットが絞り切れていない気がしますが、まちをにぎやかにしていても、そこで利益は出ていませんのでもったいないと感じています。川越や巣鴨のようになれば理想だと思います。

[委員長]

補助金のことを言っているのかどうかわかりませんが、林業組合長との話の中で「市はまちのことしか考えていない」とおっしゃっていました。豊栄や吉田などの里山地域とまちの中心である商店街とでは、少し意識のズレや反発のようなものがあるのかと感じました。

[I 委員]

やはり個店の店主の意識次第です。店主たちがどう思っているかに尽きると思います。

[委員長]

いくら周りが騒いだところで、個店の店主が経営努力をしない限り、どうにもならない問題だと思います。

[I 委員]

海岸の侵食は自然の問題でどうしようもないですが、以前 J 委員が、「しょうがないと思っていれば、自分たちで違うことをやっているよ」とおっしゃっていたのが印象に残っています。侵食はどうしようもないと思っても、生活しなければなりません。若い人はまちに出たり、行商で頑張っている人もいますよね。

[議長]

侵食の影響は大きく、これはまさに損失です。海岸地域も何とかならないものかと思っています。

[I 委員]

一度海岸地域の視察に行ったときに、初めて見ましたが大きなグラウンドがありましたよね。あれももったいないなと思いました。

[委員長]

いろいろ施設自体はあるのですが、全てのつくりが中途半端な気がします。公式な施設がありませんよね。旧光町ではスポーツ公園にちゃんとした野球場ができています。

[議長]

民宿などにしても、時代に合ったものとか、特別な料理を食べさせるとか、何か特徴があればいいのですが。

[H 委員]

現在、地引網はやっていないのですか。

[I 委員]

同級生で民宿を営んでいる人がいますが、彼女たちがお嫁に来たころはバスで何十台もお客が来て、お金がたくさん動いてとても面白かったと言っていました。現在は、地引網をやめて行商に出ているそうです。

[議長]

野栄地区の海岸通りににぎやかさが出てくると、南北の中心である J T 跡地を交流センターとして位置づけられそうな気がします。すでに北の里山では、天神の森によく NHK がロケにきていますし、安久山のスタジイが日経新聞で「訪ねたい神秘的な

巨樹」の第8位として取り上げられていました。

[H委員]

それは市の広報に掲載されますか。

[事務局]

市役所内では、その記事が回覧されていました。

[H委員]

商工会の新聞に掲載されていましたが、今度、のさか望洋荘が商工会に加入しましたよね。

[議長]

山形にある親会社と縁を切ったので、商工会に加入したり自由にできるようになりました。

[H委員]

施設を直してきれいにすればお客は来ると思いますが。

[議長]

改修するには数億円のお金がかかると思いますが、上手に制度資金を活用して会社を維持してほしいと思います。唯一、海岸沿いで大きな部屋が使えるところですよ。

[委員長]

先ほどのH委員の話につながりますが、まだのさか望洋荘を旧野栄町で運営していたころ、一度親戚の人を宿泊させたことがあります。食事の時に大きなヤカンを持ってきてお茶を入れていましたが、もうちょっと接客の勉強をした方がいいのではないかと思いました。商店街についても同じことが言えると思います。

[I委員]

商工会女性部でも、新年会でのさか望洋荘を利用させていただいていますが、カーテンがはじけてしまっていたので、さすがにみっともないので、言って直してもらいました。行政側にとっては、市民の意見を聞いてくれているのだと思いますが、「こんなまちにしていきたい」という行政側の青写真みたいなものはないのでしょうか。

[H委員]

行政があまり首を突っ込むと、市民は全て行政がやってくれると思ってしまいます。本来は、商店街の店主たちが「自分のまちだから、自分の店だから」という思いで良くしていこうと思わないと、いくらお金を出しても意味がないと思います。

[委員長]

H委員の意見が正論ですが、しかし、もうちょっと行政側の考えがあってもいいと思います。

[事務局]

この戦略会議に関しては、皆さんの意見をまとめたいというのが市長の考えですので、次のステップとして行政が判断しなければならない段階では、方向性を出していくことになると思います。

[H委員]

例えば、お寺の周りに桜の木を植えて、春はお参りしながら桜を観に行くとか、名勝をたくさん作ってみてはいかがですか。お寺の中にも、拝むと頭が良くなるとか、そういうご利益があるものを作り出して、巢鴨のとげぬき地蔵のようなものを匝瑳市でも作れないでしょうか。昔は、おばあちゃんたちが集まり、決まった日に月2回～3回、みんなでお寺にお参りに行きました。帰りには、まちでたくさん買物をして帰ったものですが、現在はそういう習慣はありません。

[委員長]

現在では、お子安講はやらなくなってしまったのですか。

[I委員]

昔は毎月やっていましたが、若い人も減っていますし、徐々にやらなくなってしまいました。

[H委員]

人間は死が近づくとつれて拝みたくなってくるものですが、若い人はそう思わないのかもしれない。八日市場には由緒正しいお寺という宝物がいっぱいあるわけですから、非常にもったいないと思います。

[議長]

風土記シリーズで前に資料を読んだことがあります。八日市場駅から北へ上がっていった正面に多田屋さんがあります。そこに薬師寺というお寺があり、昔はそこに人がたくさん集まっていたそうです。現在も石像はありますが、当時は信仰心のある人がお参りに来ていたそうです。

[委員長]

先日、Bさんが言っていましたが、東照宮というところがありますよね。

[G委員]

昔は駅から北に上がってきた正面にありましたが、道路を造るために場所を移しました。

[議長]

近くにある見徳寺も大きなお寺で、現在は道路ができたために分断されていますが、昔は現在の万町を「門前」と呼んでいたぐらいですから、大きなお寺だったと思いま

す。私の記憶では、まだ道路ができていなかったときは、北から入る門があったと思います。現在は西側にお寺の入口がありますが、昔はお寺にサーカスが来たりしていました。

[H委員]

八日市場という名前がつくぐらいですから、昔はあちこちで市が開かれ、にぎわっていたのだと思います。

[議長]

銚子に嘉平屋という有名なかまぼこやさんがありますが、現在、銚子のお客さんが少なくなってしまったということで、軽自動車で成田や匝瑳へ出張販売を行っています。定期的に月数回売りに来るわけですが、昔の八日市のように、市内だけでなく市外のお店も出店させて、月1回の市を開催してみたら面白いと思います。

[I委員]

さらに空き店舗をうまく活用できればいいですよ。金額的にはわかりませんが、商工会で被災地の産品を販売したときは、けっこうお客さんが来ていたと思います。

[委員長]

ちなみに、坂本さんの落花煎餅に使用している落花生は、どこの産地のものですか。地元周辺のものですか。

[議長]

おそらくそうだと思います。

[委員長]

戦略会議でずっと考えていたことですが、先ほどH委員の話の中で、トウモロコシの販売のことを言っていましたよね。今まで農家というのは生産だけしかしていませんでした。食糧の流れを川の流れに例えることがあります。川上、川中、川下とって、川上が生産者です。ふれあいパーク設立当初は、行政が支援していたと思いますが、現在は川中まで攻めてきているわけです。逆に企業の方が、契約栽培などで流通や生産まで手を伸ばしてきています。ここをうまく組み合わせれば、いろいろなことができるのではないかと思います。実際に野栄地区には味噌を作ったりして、農産加工をやっているところがあります。全国的な傾向では、農産加工をやっているのは規模の大きい上層農家です。そういうところでは、生産農家が加工までやっているのです。生産農家とタイアップして加工や流通まで行えば、活路を見出せるのではないかと思います。大型店にやらせておくのはもったいない気がします。

[H委員]

堀川味噌は値段が少し高いですが、おいしいですよ。

[委員長]

堀川西宮農組合は農事組合法人だったと思いますが、新堀川沿いにもそういうところがあります。かつての「野菜いきいき農業塾」を匝瑳市規模で復活させたらいいと思います。

[議長]

前にも少しお話しましたが、香取市にある和郷園では生産だけでなく、最終的には自分たちで販売まで行っています。ネックは農協に出荷しないことですが、先日千葉に行きましたら駅前で盛んに売っていました。

[委員長]

私も和郷園について調べてみました。研究部門や食品部門などにいろいろ分かれ、組織立って運営されています。農協はなかなか流通から離れられません。農協でも先進的に進めているところは、生協と組んだりしていろいろやっています。

[議長]

和郷園では、親に反対されてまで自分たちで販路を確保したということですから、そうやって頑張っている人たちがすぐ近くにいるわけですね。

[委員長]

海岸地域でも、鈴木屋水産は県下で納税額ベスト10に入るのではないのでしょうか。

[議長]

農家のお米でも、特に煎餅に使うお米を集めてやっているところもあります。

[委員長]

街中でお米を売っているお店はありますか。

[議長]

磯部米屋さんがあります。かつては、この時期になるとトラックが毎日何十台もお店に来ていました。現在は、従来よりトラックの数が減ってきています。

[委員長]

大型店でもお米は売っていますよね。若い人は大型店でお米を買う人も多いのではないのでしょうか。

[H委員]

今年のお米は例年より高く売れるみたいですよ。匝瑳市では、幸いにも放射能が基準値以下ということですが、他の地域では大変影響を受けているところもあるようです。市内では休耕田も多く、荒れてしまっているのも問題ですよ。

[委員長]

ちなみに、多田屋さんの前に建っている石造は何ですか。

[議長]

あれは薬師様です。

[G委員]

現在建っているのは3代目で、もともとは薬師堂があった場所です。毎月お堂で八日とか十二日に縁日が行われていたので、八日市場という名前がついたそうです。

[委員長]

その薬師様は街中では評判がいいのですか。

[G委員]

現在は信仰の対象というより、モニュメントに近いと思います。

[委員長]

最初に見たときに、お堂があるのを忘れていましたので、場違いなところに石像が建っているという印象を受けました。

[G委員]

歴史を知っている人も少なくなっていますよね。

[H委員]

歴史を書いた札をあちこちに建ててみたらいかがですか。

[委員長]

その薬師様を建てたことは、ある意味象徴的だと思いますが、もっとまちにフィットしたものを検討した方がいいと思います。

[I委員]

前回の会議で、朝市はすでにマンネリ化していると言っていました。盛況だったころは、朝市を楽しみに朝早起きして通い、帰宅してまた寝る人もいたぐらいです。朝市を街中にもってきて開催することはできないでしょうか。

[委員長]

やはり、八日市場の復権には個店の皆さんの協力が不可欠だと思います。

[議長]

結局、住居つき空き店舗を貸してくれるかどうかだと思います。貸し借りするには当事者同士ではなかなか前に進まないと思いますので、第3者に入ってもら方がいいのではないのでしょうか。

それと、夜が本当にさみしくなりました。街中には昔から保健所や裁判所など官庁施設がけっこうありますが、そこで働く人たちがちょっと飲みに行けるお店がほとんどなくなってしまいました。先日、市長と一緒に飲む機会がありまして、そこで日中200円で循環バスを回しているの、夜は500円でもいいから2回ぐらい回したらど

うかという話をしました。タクシーを使って飲みに行く人はほとんどいませんから、気軽に飲みに行ける環境を整備することも必要ではないでしょうか。

昨日も「地井さんを偲ぶ会」に多くの方が参列していましたが、地井さんがやろうとしていたことは、匝瑳市を全国発信することでした。この意志を引き継ごうと、地井さんと親しかった商工会のK会長が中心となり、現在、地井散歩倶楽部という団体で、散歩コースを市内に作ろうというアイデアも出ています。地井さんがこのまちを愛した思いを引き継いで、それがいい方向に向かってほしいと思っています。

[委員長]

商店街ではアーケードをかけたり、レンガの道を整備したりいろいろやっていますよね。そういう動きがあるとすれば、ぜひ地井さんの絵手紙を街中に散りばめてほしいですね。

[議長]

さて、レジュメの①についてはいろいろ意見が出ましたが、意見をまとめて私からも商工会の仲間に伝えたいと思います。

続いて②の中間報告についてですが、L委員やM委員、委員長に作成していただいた考え方を基に、本当に必要ならば自分ごとで考えなければならないし、市民協働で取り組むべきだというまとめをしたわけです。J T跡地については、他人ごとで考えてしまっていることと、本当に利用方法がなければ売却も一つの手段だという考え方も示されました。平成17年に出された「J T跡地活用に関する報告書」を拝見しましたが、これは商工会を中心に検討した結果をまとめたものですが、高校生の意見も取り入れるなどいろいろ試みはしているものの、なかなか視点が広がりませんでした。短期的には多目的広場や時間貸しパーキング、将来的には駅を中心とした総合開発というかたちでまとめられていましたが、そこで検討が止まってしまったので、戦略会議が発足されたわけです。先日、日経新聞に興味深い記事がありましたので紹介します。「日本の経済にとって地方経済の再生は大きな課題である。景気低迷による所得格差よりも地域格差の方が深刻ではないだろうか。グローバル経済が進展し、地方の制度拠点としての地位が低下。農業の競争力も弱く、地域経済の中央への依存は相変わらずある。一方で、各地で地域独自の努力が積み重ねられている。このような草の根の活動が地域再生の行く末となることを期待している。ただ、これらの努力に大いに敬意を払う一方、その内容がどこも似たり寄ったりで決定打に欠ける。失礼を覚悟で言えば、地元偏愛症候群であると思っている。我が地域は自然が豊か、海のもの、山のもの、おいしいものは豊富です、という言葉はどこに行っても聞く。しかし、それだけでは魅力ある地域のアピールにはつながらないことを強く自覚すべきだ。」として

います。また、ある経営学者が言うには「他者との差異を創出することの重要性」、「顧客から見た価値の高さ」これを競い合っこそ、観光客を内外から引き寄せることができるということで、皆さんの視点の違いから出される指摘が重要になってくると私は思います。中間報告で戦略までの議論はされましたが、市から投げかけられた課題に対し、今度は戦術をどう展開していくか、そこまで来ているのだと思います。

[委員長]

私の考えは部会長と少し違いますが、戦略としての中間報告はまだ不十分だと思っています。例えば、商店街の空き地問題を考えるときに、中間支援組織を作って市民協働の概念を導入し、ワークショップで課題を解決していくことになると思います。個別のものはそれでいいのですが、市や市民が戦略会議に期待していることはそういうことではなく、もっと他人ごとの大きなスケールのまちづくりだと思います。これが良いと言っているのではなく、これがないといくら市と市民が一緒にやってみましょうと言っても、何に向かってやっていくのか、また、この匝瑳市で持続可能な地域づくりをやっていくためには、どことどこを結びつけたらいいのかがわからなくなってしまうと思います。まず、大きなデッサンを行い、その中で中間報告でまとめた方法を使って、課題を解決していけばいいのだと思います。自分ごとという考え方は、ある意味あたりまえのことだと思います。匝瑳市民が自分ごとで考えたとき、匝瑳市内部のことしか考えなくなる危険性もあります。地域は個性を持っていますが、地域がそれだけで自己完結するわけではありません。地域周辺での様々な環境や経済などとは無関係に動くことはできません。戦略会議では、どうしたら持続可能な地域システムを作っていけるのか、これを考えていくべきだと思います。里山と農業を結びつけたり、農業の生産物を商店街と結びつけたり、そういう大きな構造を描いていくことが最終的には必要になってくると思います。これはあくまで大きなデッサンであって、これを具体的に考えるときは、中間報告のしくみを使って市民が考えていけばいいことで、その原型になるべきプロット（構想）は出すべきだと思います。

[議長]

今後を考えていくとき、高齢化と人口減少は避けられないと思います。福島県の旧小高町（現在の南相馬市）では、これまで走らせていた路線バスを廃止して、乗合タクシーに切り替えました。乗合タクシーはバスに比べてコスト的にも安いですし、わざわざ停留所まで行かなくても玄関まで迎えに来てくれますので、住民に非常に喜ばれ、買物をする人も増えているそうです。

[委員長]

M委員がよく市民協働やワークショップの話をされますよね。こういうことをやっ

ていくと、バスからタクシーへなどの課題が浮かび上がってくるのだと思います。その大前提として、公共交通や交通手段のフレームワークを戦略会議では出すべきだと思います。それぞれの分野でワークショップにより課題を浮き彫りにし、解決を図ろうとしたときに、先ほど部会長がおっしゃったような事例が出てくるとと思います。

[I委員]

昨年、商工会事務局の方と話をしたときに、タクシー券の予算を組むというような話を聞いたことがあります。そのまま消えてしまっています。一応、話題としては出ています。

[H委員]

県内のどこかの市町村では、バスを廃止して予約制のタクシーに切り替えたところがあります。数人で日時と場所を指定して予約して、そこにタクシーが迎えに来て、買い物に連れていくというシステムです。

[議長]

駅でお客さんを1時間も2時間も待っているタクシーを見ていると、もう少し知恵を出して何とかならないのかなと思ってしまいます。車もそんなに高くない軽自動車に変え、全てコンピューターによるシステム化を行い、配車センターで管理・運営していくというやり方がいいと思います。駅に留まっているだけではなく、困っている人はもっと違うところにいるのではないのでしょうか。

[H委員]

私の住んでいるところから街中までタクシーを利用すると、2,000円ぐらいかかってしまいます。買物に行くのに2,000円もかかってしまうのはもったいないですから、ますます買物には行かなくなってしまう。これを市役所をお願いするのではなく、タクシー会社が自分たちで取り組んでいこうという気持ちになってくれれば、もっと便利になると思います。

[委員長]

現在、千葉市では栄町が落ち込んでいる状況ですから、駅前にタクシーがけっこういます。最初は普通のタクシーと320円タクシーの待機所は別々でしたが、業者間の問題もあって、結局一ヶ所にまとめられてしまいました。最近、プリウスやカムリなどのハイブリッド車も増えてきています。沖縄県では、電車があまり通っていないこともあってか、タクシーが意外と安かったりします。バスをタクシーに切り替えるというのは、意外といい案かもしれません。

[議長]

この乗合タクシーは、バスに出していた補助金の一部を使って展開していますので、

運賃を通常より安くすることができます。

[H委員]

市の補助金は使わずにタクシー会社がもっと研究して、自分たちで運営するのが理想だと思います。そうすれば、バスに使っていた予算を防災や復興関連などの事業へ回すことができます。

[事務局]

循環バスの契約は来年度で一旦切れます。現在、循環バス自体を存続させるかどうかというところから検討を始めました。

[H委員]

バスはやめて乗合タクシーにした方がいいと思います。

[委員長]

契約が切れるということで、見直しを始めたということですよ。これはある意味チャンスでもあります。

[議長]

乗合タクシーの資料がありますので、参考までに今度持ってきます。

[H委員]

5人ぐらい集まって、夜でも人数が集まれば迎えに来てくれるということであれば、うれしいですね。

[事務局]

既定のルートからデマンドに変えている自治体は多くなっています。

[議長]

走らせていても、乗る人がいなければ意味がありません。

[H委員]

タクシーであれば、乗りたい人が乗るシステムなので、無駄がありません。

[議長]

また、病院へ行くのにも、家の玄関から病院の玄関まで横づけで行けますから、大変喜ばれるそうです。

[委員長]

以前、「大型店が進出してくるときに無防備だった」という話がありましたよね。バスの話も検討を始めたということですが、大型店の進出は時代の流れですからどうしようもありません。まちづくりの視点で考えると、市の中心地が動くことになるわけですが、それによってかつての中心地は寂れてもいいのかということです。それを考えてこなかったということは、地域づくりとしては失敗だと思います。これは行政だ

けの問題だけではなく、商店街の店主たちがどのように対策を考えていたかということになります。駐車場を整備しただけでは対策になりません。

[議長]

農業についても商工についても苦しい状況になってしまって、人の金を当てにしすぎている部分があるのかもしれませんが。お金を配る方は政治的な部分かもしれませんが、もらう方もわがままに要求してきて、どんどんお金をもらうようになってしまいました。このへんに自立できなくなってしまう原因があるのかもしれませんが。大変ではありますが、自立していこうという気持ちがなければ、市民協働でのまちづくりは不可能だと思います。

[委員長]

市民協働を行うには、市民が自立しなければできません。市民が施策を提案し、それを行政が支援していくレベルでないと無理だと思います。しかし、実際には難しいと思います。市民協働で地域づくりがうまくいっている地域があったとしても、それは市全域でそうになっているわけではなく、一部で突出した地域が例として取り上げられている場合が多いです。一番うまくいっているのは鎌倉市だと言われていますが、地域の中で突出したところです。

[議長]

飛騨高山も同じで、一部のエリアだけ取り上げられています。

[H委員]

試しに乗合タクシーをやってみるのもいいかもしれません。

[議長]

実際にやっているところはありますから、できないことはないと思います。

[H委員]

来ないお客さんを待っていても無駄です。商店街にも同じことが言えるかもしれません。

[委員長]

千葉市や東京でタクシーに乗車すると、たまに若い運転手がいますが、リストラされて転職する人が多いようです。話を聞いてみると、給料はそんなに高くないようですから、けっこう大変みたいです。

[H委員]

高齢者はけっこう利用すると思います。

[議長]

近い将来、高齢化率はさらに上昇します。三重県知事の話によれば、「高齢化の進行

に伴って、今まで以上に高齢者の介護や生活支援が必要なる。また、子どもの教育や若者の就職支援に対する問題など、生活を主体とした活動にも需要の幅を広げること
で、地域との連帯を深められるのではないかと」言っています。つまり、住民の生活を
まるごとサポートするかたちでの事業展開が必要だということです。

[委員長]

高齢化は匝瑳市だけの問題ではありません。都市部だと電車やバスが頻繁に運行さ
れていますが、高齢者は無料で乗車できるので外出する人が多いです。もし、匝瑳市
でバスまでなくなってしまったら、相当な不満が出ると思います。少ないながらも交
通弱者は本当に困っていますので、何らかの解決方法を考えておかなければなりませ
ん。市役所で福祉タクシーの張り紙を見ましたが、これは車椅子の人も乗車できる
というものですか。

[事務局]

タクシー会社へ無料で通話できるシステムになっています。

[H委員]

本当に体の悪い人などは、国の制度で支援が受けられるシステムになっていますが、
少し足が悪い程度でそんなに困っていないような人が、気軽に利用できる交通手段が
ありません。そういう人たちが気軽に買物に行けるような、比較的安い交通手段の整
備をお願いしたいと思います。

[議長]

G委員いかがですか。

[G委員]

タクシーではありませんが、運転代行に対する補助も一つの方法だと思います。夜
飲みに行くにも、酒を飲んで運転して帰るわけにはいきませんが、運転代行でお金
が余計にかかってしまうので足が遠のくということも考えられます。せめて、市内から
市内に帰るときだけでも、一律の料金で乗車できるとか、こういう政策があると夜の
まちも少しはにぎわいを取り戻せるのではないのでしょうか。

[委員長]

現在は運転代行がありますが、かつては田んぼの真ん中にスナックなどがあり、そ
の後、酒を飲んでどうやって帰っているのだろうと不思議に思っていました。

[事務局]

お店で送迎をしてくれます。車をお店に置いて次の日に取りに行くのです。

[G委員]

私は街中なので、どこで飲んでも同じ料金で帰ることができますが、遠くの人は何

千円もかけて帰るわけですから大変ですよ。

[I 委員]

高齢者に優しいまちづくり、商店街づくりが一つのポイントになりますね。

[議長]

先日、流山市から友人が祭りを見に来まして、「こんなに盛り上がっているのなら、女神輿サミットをやってみたらどうだ」と言っていました。先日、深川八幡祭り（富岡八幡宮）を見に行ってきました。確かに神輿の数が多いですが、やはり匝瑳市の八重垣神社祇園祭にはかなわないと思いました。

[I 委員]

担いでいる人は地元の人ですか。

[議長]

ほとんど地元の人ではありません。

[H 委員]

ただ、街中にも宿泊場所がありますが、祇園祭の時期は予約でいっぱいです。そういう意味では、祭りが商売につながっていますよね。

[委員長]

先日、地井さんがテレビで祭りについて語っていました。八重垣神社祇園祭は、佐原の祭りのように有名な山車があるわけではありませんよね。でも、そんなに有名な祭りではありませんが、地井さんにとっては最高の祭りであって、非常に尊いものだと言っていました。まさにそういうことだと思います。地元の人にとっては「これが祭りなんだ」という、そういう意識を外に広げようとする、私は失敗するのではないかと個人的に思っていますが。

[議長]

10月によかっぺ祭りがありますが、そこでは小学生がたるみこしを担いで、町内の人がお囃子を担当します。これを見て、担ぎ手になりたいと思う人は多いようです。そういう意味では、よかっぺ祭りも八重垣神社祇園祭の参加者を増やしている一つの要因になっていると思います。

[委員長]

よかっぺ祭りも完全に定着し、一つの伝統になっています。祭りというものは本来、疫病を祓ったり、五穀豊穰を祈願したりという神事から出発しています。そういう伝統の中ににぎやかさが生まれると、行事として継続できるようになります。のさかふれあいまつりは政治的な面がありましたが、堀川で開催している祭りはそんなににぎやかではありませんが、神事から出発しているので現在も継続されています。

[議長]

それでは、時間もせまっていますので、委員長のまとめで終わりにしたいと思います。

[委員長]

こうやって様々な角度から議論してみると、いろいろな話題が出てくると思います。それらをどこかでまとめられたらと思っています。先ほど、市内4人の方とヒアリングを行ったと言いましたが、会議だけでは見えてこない部分がいろいろ出てきます。里山にしても、J委員とはまた違った視点が出てきています。ただ、商店街においては委員の方が商店街の方なので、今後はどんどん意見を言ってもらって、商店街の活動に参加していただきたいと思っています。

[議長]

ありがとうございました。それでは、事務局から連絡事項はありますか。

(2) その他

[事務局]

3点、事務連絡をさせていただきます。

まず、次回の部会の日程についてですが、事前に部会長と相談させていただいた結果、部会員の日程を確認した上で決定することとなりました。冒頭、部会長からのあいさつにもありましたが、部会は10月までとしておりますので、少なくとも次回は9月中の開催になると思います。ただし、日程調整する際に、部会という組織の性質上、部会員が全員で5人しかいませんので、この段階で例えば2人欠席ということになってしまいますと、部会の議論がうまくいかない可能性がありますので、少なくとも調整の段階では皆さんの都合の合う日で設定していただきたいと思っています。

[議長]

次の戦略会議（全体会）の日程はいつになりますか。

[事務局]

この後、お知らせしようと思っておりましたが、部会の検討結果を全体会に報告することとなっていますので、次回の全体会の日程はまだ未定です。

[委員長]

私の方から最終報告に向けての報告がありますので、10月の下旬ごろに全体会をお願いしたいと思います。日程については事務局で調整をお願いします。

[事務局]

わかりました。それでは、全体会の日程を踏まえた上で部会の日程を決めていただきたいと思います。

[議長]

9月12日(水)～14(金)あたりで考えたいのですが、14日(金)はいかがですか。

[出席委員全員]

異議なし。

[事務局]

時間は19時からでよろしいですか。

[事務局]

人数が少ないので、皆さんの都合のいい時間で決めていただいてもかまいません。

[議長]

皆さんいかがですか。少し早めて18時30分とかはいかがですか。

[出席委員全員]

異議なし。

[事務局]

それでは、次回の部会の日程は、9月14日(金)18時30分からということで決定いたします。会場については、後日開催通知と一緒にお知らせいたします。

次に2点目ですが、当初、戦略会議(全体会)の日程を8月31日(金)とさせていただいておりましたが、先ほど委員長からもお話があったとおり、次回は10月上旬で調整することとなりましたので、よろしくお願ひします。

最後に3点目ですが、部会についても会議録の確認をお願いしたいと思っています。全体会については、委員長、それから順番で委員さんに2人ずつ交代でお願いしているところですが、部会についてはどのような方法がよろしいですか。

[委員長]

部会員全員に送って確認してもらってはいかがですか。

[出席委員全員]

異議なし。

[事務局]

それでは完成次第、皆さんにお送りいたしますので確認をお願いします。事務局からは以上です。

[議長]

それでは時間になりましたので、本日の会議はこれで終了となります。

[事務局]

ありがとうございました。

4 閉 会